

- 圃場の水位・水温等を各種センサーで自動測定し、スマートフォン等でいつでもどこでも確認が可能。価格帯（目安） 初期費用：無料～75万円、月額利用料：無料円～1万円/台

事前検討チェックリスト

- ✓ 開水路かパイプラインか。
- ✓ 接続部のパイプの径は合っているか。
- ✓ 水路のごみ対策は大丈夫か
- ✓ 需要期の水路の水位は十分に高いか
- ✓ 通信方式を確認したか。
- ✓ 設置場所に電波は届いているか
- ✓ 通信費はいくらか。
- ✓ 通信費の負担者は決まっているか。
- ✓ ケーブルの動物対策は大丈夫か
- ✓ 冬季の対策はきまっているか。

運用中に発生したトラブル事例

- 曇天つづきで電池の電圧が低下して動作しなくなった。
- ケーブルを動物に齧られた。



導入効果

- 作業舎から離れた水田に設置し、見回りを減らしたことで、**作業時間が平均で80%短縮**できた。
- 穂ばらみ期の低温時に深水灌漑を実施し、低温被害のない前年度と不稔歩合を同等に抑制。
- 時間単位での細かい灌漑制御が可能となった。

自動水管理システムの作業時間（時間/10a）

No.	立地条件	地域	慣行	スマート農機	削減率
1	平場	東北	0.29	0.05	82%
2	平場	東北	0.53	0.11	78%
3	平場	北陸	0.13	0.03	76%
4	中山間	関東	7.70	1.30	83%
平均					80%

留意点

水路に網を設置するなど、ゴミ詰まり対策が必要。

通信方式や通信費、設置場所の電波状況等の事前確認が必要。



導入効果が現れない例

- 開水路の水位が、水の需要期には田水面より低くて、田の水が逆流するため、自動開閉装置は使用できなかった。